

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490500099		
法人名	有限会社 ケアつかさ		
事業所名	グループホームコスモやよい		
所在地	大分県佐伯市弥生大字山梨子828番地		
自己評価作成日	平成24年7月1日	評価結果市町村受理日	平成24年10月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府庁舎番館 1F		
訪問調査日	平成24年7月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

建物は山や田、川などの自然に恵まれた環境の中に建ち、入居者はそれぞれが自分の生活リズムでゆっくりと過ごしています。
開所して5年が経ち、入居者の高齢化、身体状況の重度化、そして認知症状の進行などにより、さまざまな課題が生じています。入居者が健康で、安心して毎日を穏やかに過ごしていくために、私達は何ができるのかを考えながら日々の介護に取り組んでいます。そして、同じ時間を過ごしていく中で、入居者の喜怒哀楽を共有しながら、今できることに一生懸命励み、理念に添った寄り添う介護ができるように努めていきたいと思ひます。また、地域住民の一員として事業所のできることで、地域活動や人々との関わりも大事にしていこうと努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

四季折々の自然環境が利用者の心をなごませ、日々の生活に潤いを与え、ゆっくりとした時間を過ごされるよう支援がなされています。職員が地域密着型のグループホームを良く理解し、利用者を第一に考えケアに取りまわっています。利用者一人ひとりの特徴を把握し、個々に合った支援がなされています。また、カンファレンスは職員全員で実施し、情報の共有を行い、ケアの提供にも取り組まれています。身体拘束についても良く理解し、研修等により職員の意識の向上心が感じられ、また、職員一人ひとりの年間目標を設定し、それについても積極的に取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の基本理念を玄関と事務所に掲示しています。毎朝朝礼時に復唱して理念に基づく介護ができるように認識を共有しています。また、職員会議等で理念の大切さを伝えています	地域密着型の役割や理念に対する考え、施設の方針を朝礼、或いはミーティング等で共有しながら、日々の支援の中で利用者本位の取り組みがなされています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方とは外で出会った時に挨拶をしたり話をしています。ホームの敷地内や駐車場で子供や親子が遊ぶ姿も見られます。	地域からのご案内があれば、高齢化であるが出来るだけ、行事等に参加され、また、地域の中・高校生等がボランティアで利用者との交流がなされています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏休みに高校生がボランティア活動に来てくれました。認知症の方と多く触れ合うことで多くのことを感じ、学ぶことができたという感想を聞きました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でホームの活動報告や入居者の生活の様子、健康状態などを報告しています。参加者に意見を出してもらったり、地域での出来事などの情報を収集しています。	運営推進会議は、年6回定期的に開催され、施設の課題に対する意見、自己評価、外部評価等の報告など、双方向による交流が積極的に行われています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市の地域包括支援センターの職員に参加してもらい、行政面からの意見や介護保険の実情を聞いたりしています。困難事例を取り上げることもあります。	地域包括支援センターを核に利用者の生活状況や課題等について協議がなされ、また困難事例等生じた場合、市の介護保険係とも情報交換等に取り組まれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束をしないという意識を持ち日々の介護に努めています。身体拘束に関する勉強会を行い、認識を高めたいと思います	権利擁護や身体拘束に関する研修会を職員会議等活用しながら、年間事業として位置づけ、全職員参加のもと取り組みがなされています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する勉強会を職員間で行い、日々の介護をしていく中で、見過ごされることのないよう認識を高めたいと思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護が必要なケースが生じた場合には、関係者と話し合い支援をしていくように努めます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に家族に契約書を渡して内容を説明しています。利用料や入退院時の対応など家族の不安を尋ねて、十分な説明を行い署名捺印していただきます。法改定の際には家族からの疑問点を説明して理解してもらっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置していますが、活用されていません。入居者や家族が職員に意見や要望を伝えることができるような雰囲気心がけています。家族からは面会時に様々な意見もあり、介護に反映しています。	利用者自身や家族等が意見・要望が言える環境作りに配慮され、また苦情・意見が市の介護保険係等においても申せる事を案内するとともに、出された意見には積極的に解決・対応がなされています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日頃から職員の意見を聴くように努めていますが、十分に把握できていないこともあります。職員の意見や提案を代表者に伝えて運営に反映できるように努めています。	日頃の関わりの中で、気づくアイデアや支援の方法等、ミーティング、勉強会で出され職員からの意見・要望に対応されています。	職員一人一人の意見や考えが自由に表せる、環境づくりの設定とコミュニケーションを積極的に取りながら、現場の意見が反映できるよう期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は事業所に立ち寄り、職員の勤務状況を把握して、意見を聴いたりして向上心を持って働けるように職場環境、職場の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得のための講習や研修会の参加のため勤務調整をしています。各研修会の案内を掲示して希望者には参加できるように配慮します。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修会等で他の施設の職員と情報を交換しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前や入居時に本人と話をして要望や困り事、いろんな思いを傾聴するように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や入居時に家族に来て頂いて、家族の困り事や不安、要望を傾聴しています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居に関わる相談で本人や家族の意向を聴きながら何が必要かを見極めて、事業所としてできるかぎりの対応に努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の喜怒哀楽に共有しながら、傍に寄り添い、一緒に過ごすように努めています。介護する側される側という意識を持たずに、共に支えあいながら生活できる関係をもてるように努めます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には、家族と一緒に過ごす時間を大切にしてもらいながら、間に入り一緒に話をしたりホームでの暮らしぶりや健康状態などを伝えるようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時に知人に会い話をする機会もあり、傍で様子を見守っています。物忘れによりうまく対応できないことも多く、間に入って本人が困ることのないようにします。	今までの生活延長を保つため、電話や手紙など、昔親しかった人との交流や、昔なじみの方との出合いを支援されるなど、継続的な支援に積極的に取り組まれています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は入居者間の人間関係を把握しています。入居者同士が関わり合い、支え合いながら生活していくために、場面を設定したり間に入って話をしたり穏やかに過ごせるように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や病院に会いに行ったりします。また、家族に偶然会うこともあり話をして今までの縁を大切にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、本人の思いや要望、どのように暮らしていきたいかなど折りに触れて聴くようにしています。自分から言ってくる方もいます。	一人一人のつぶやきに耳を傾けるなど、本人が言葉に表せ惜い事も、日々の行動や表情からしっかり受け止め、本人の希望に沿って支援に取り組まれています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や入居時に本人や家族から生活歴や暮らし方について聴き取るようにしています。入居後も本人から聴いたり、面会時に家族から聴いて少しずつ把握するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に一人ひとりの心身状態を把握するようにしています。その日の過ごし方や介護の仕方など変わってくるので、本人にあった対応をするようにします。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を聴いて、介護計画を作り、職員間のケース会議で話しあうようにしています。	家族、関係者の意見を受け止めながら、支援の中での職員の気づきや意見を反映し、状況変化があれば、すぐ対応されるなど本人が暮らしやすい介護計画に取り組まれています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録があり、その日の生活の様子や気づき、状態の変化などを記録して職員間の情報の共有しています。介護の実践の方法について話し合い参考にします。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況や希望に応じて、外出など柔軟な対応ができるように努めます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者が安全で豊かな生活が送れるように、地域資源を把握して、必要に応じて協働できるようにしていきたいです。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人と相談してかかりつけ医を決めて受診の援助をしています。身体の状態により、訪問診療をお願いしている方もいます。受診時には職員が同行して主治医との連携に努め、本人が混乱せずに診察ができるように配慮しています。	利用者、家族の希望に沿ったかかりつけ医の受診支援が行われています。結果についても家族、職員、医師との連携が保たれ、一人ひとりの健康管理が保たれています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤で看護師を配置して、入居者様の健康管理を行っています。介護職と情報を共有できるように話し合い、記録を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院の地域連携室と連絡を取り合いながら、状況の把握をして早期発見にむけて調整をしています。また、入院中に面会に行くことで状態の確認をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末気の対応については、家族の希望を聞いて、ホームでできることとできないことを伝え話し合うようにしています。	入所時に重度化、終末期についての話し合いが行われています。また面会時には日々の身体の様子を伝え、家族の希望に添って医師と連携が図られています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に対応できるように、職員の実践力を身につけていきたいと思えます。夜間帯など人手の少ない時の対応や連絡法についても想定して行動できるようにしたいです。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年1回防災訓練を行い、地震や火事の際の対応や入居者様の避難誘導を行っています。運営推進会議で地区の方に非常時の協力支援をお願いしています。	消防署の協力のもとで防災訓練、避難訓練を実施するとともに、推進会議の中で地域住民の協力の呼びかけを行っています。	非常時や防災訓練など地域、関係機関が実際に参加し、問題点・課題を共有し、要援護者である利用者の避難体制が出来るよう期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の思いは共有しながら、その人に合った言葉かけをして穏やかに生活できるように努めています。	利用者さんの誇りやプライバシーに配慮した声かけや対応に努めています。また職員間での気づきは職員会議やミーティングを通じ、情報の共有と検討が図られています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で入居者様の表情を観察したり、言葉かけをして訴えを聞いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日にその方のできる事、体調や気分で過ごし方は違いますが、本人らしく楽しく1日を過ごせるよう心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の好みを選んでもらい、その日の気分によりその人らしくおしゃれや身だしなみに気をつけて一緒に選んでいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの菜園で採れた野菜を使ったり、季節の旬のものを使い献立を工夫しています。野菜の皮むきなど手伝ってくれます。	食材を見てもらう事や調理の下ごしらえをしてもらう中で感じる音や香りを大切に食欲増進へとつなげています。食欲のない時や、本人の希望を取り入れ個別の対応がなされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	おかずを刻んだり、ごはんをおにぎりにしたり、食べやすい形態にして自力で食べて頂き、全量摂取できるようにしています。1日の水分量を1000CCを目標にお茶だけでなくレモンティや紅茶など飲んで頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口の中の汚れや臭いが生じないよう、入れ歯を外してみがき、うがい等で口腔ケアをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンに合わせて、声かけや誘導して失敗しないように努めています。	一人ひとりの排泄パターンを把握しており、尿意のない利用者さんには体調、時間をみて誘導しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェックシートで排便の有無を確認しています。十分な水分摂取に努め、トイレ時に腹部マッサージをしたり、ウォシュレットで刺激をしています。場合により下剤を飲んだりします。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声かけをして、タイミングよく入浴してもらっています。入浴しながら一人一人にあった話をしていきます。湯舟につかれる方はつかってもらいます。	ユニット毎に週3回の入浴となっておりますが、本人の入りたい気持ちを大切にしており、タイミングに合わせた入浴が可能となっております。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣で活動してもらい、夜は眠れるように支援しています。ホールや居室内の室温調整を行い、一人一人にあった時間で夜寸でもらっています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬のないよう名前の確認をして、きちんと服薬できているか最後までしっかり確認しています。服薬している薬にファイルがあり職員が把握できるようにしており、医師の指示通りに服薬できるように支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	字を書くのが上手な方に半紙に毛筆で字を書いてもらい、居間の壁に飾っています。裁縫の上手な方には雑巾を縫ってもらい新聞折りや洗濯たたみを皆でしています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	昨年に比べて今年はドライブに行く回数が少ないです。天気の良い日にはなるべく散歩に出るようにしています	高齢化に伴い外出の機会は減っていますが、本人の希望を取り入れ、体調に合わせた外出支援が行われています。行事の外出とは別に買い物や個別の外出にも対応しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い程度の所持金を持って自分で管理している方がいます。必要なものを職員に買ってきてもらいお金を渡しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて電話を取り次いでいます。 自ら電話番号を押すのを傍で見えています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の場所はいつも清潔、整理整頓に努めています。居間には季節感のある飾りつけや、行事毎の写真を貼っています。調理時の匂いや野菜を切る音などがいつもあり、生活感を意識できます。	共通空間には開放的な大きな窓があり、四季の流れ、1日の流れを感じる事が出来ます。また壁には利用者さんと一緒に作られた作品や行事の写真が飾られており、楽しそうな様子が伺えます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはテーブル、ソファがあり、一人で過ごしたり、気の合う入居者同士でくつろいだり好きなように過ごしています。それぞれ落ち着く場所があるようです。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には整理たんすとベッドが設置されています。自分のテーブルや椅子を置いて面会時に使っている方もいます。	居室には思い出の写真や、映画鑑賞の好きな方にはテレビ、DVDプレイヤー、映画のDVDがそろっており、本人が落ち着いて過ごせる空間となっています。また職員との関係も良好で音量など周囲への配慮も出来ています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホームはバリアフリーで廊下やトイレ、浴室には手すりがあり安全に生活できるように配慮しています。車椅子や歩行器を使って一人で動いていますが、安全を見守っています。場所の誘導や確認をして混乱しないようにしています。		